

case.01

## 先進的な学びを支えるために、 Appleにゼロデイサポートが強みのMDMを選択



学校法人関西大学  
関西大学初等部

大阪府高槻市白梅町7番1号  
<http://www.kansai-u.ac.jp/elementary/>



関西大学初等部は、同大学の「学の実化」を教育理念に、同一キャンパスで初等部・中等部・高等部と12年間の一貫教育を実施しています。学校の設立時から充実したICT環境を整備し、思考スキルの習得を目指した独自カリキュラム「ミューズ学習」を実施するなど特色ある教育が行われています。



### iPad 一人1台で、 “文房具”として使える環境を実現

関西大学初等部は、先進的なICT環境を整備し、思考力スキルや情報リテラシーの育成を重視した教育を実践しています。4～6年生は個人所有のiPadを、1～3年生までは学校共有のiPadを複数で共有する「Shared iPad」の機能を利用し、同校の全員が一人1台で利用できる環境を築いています。iPadが文房具として当たり前に見える場合は、良質な教育実践も多く生まれており、同校はAppleが革新的な教育機関として認定する「Apple Distinguished School 2019-2021」にも選ばれています。

#### ■ iPadは、子供たちの表現や学びの可能性を広げるツール

同校の情報教育主任である堀夫斗教諭はICT教育について、「今の子供たちにとってテクノロジーは、単なる効率化を目的とした便利ツールではないと考えています。課題解決やコラボレーション、情報発信や表現など、子供たちの可能性や選択肢を広げてくれるツールで、iPadであればよりクリエイティブな活動に発展することができると思っています。子供たちの経験の質やアウトプットを高めていくために、ICTは有効であり、iPadを活かしてクリエイティブな学びの場を作っていきたいです」と語っています。



## 新しい教育活動を実践するために、Appleに強いMDMが必要

そんな同校では2018年度より、それまで採用していたMDMを「Jamf Pro」に切り替えました。その理由について堀教諭は、「昨今はプログラミング教育やICTを活用したクリエイティブ・ラーニング、探求学習など新しい教育活動が求められています。本校としても、積極的にこうした学習を取り入れていきたいと考えていますが、そのためには、Apple製品やサービスに強いMDMが必要でした。Appleにはクラスルームやスクールワークなど新しい教育活動に使える機能がたくさんありますが、現場でスムーズに活用するためにも、Appleの機能に詳しいJamfが良いと考えました」と語っています。

### ■ 教科学習と表現活動でクリエイティブな授業

実際に、堀教諭が受け持つ6年生のクラスでは、iPadを使った先進的な授業が行われています。たとえば、国語の授業では音楽制作アプリケーション「GarageBand」を使用し、オーディオブックの制作に取り組みました。児童たちは、詩のイメージに合わせてオリジナルのBGMをGarageBandで作

成し、出来あがったBGMに合わせて、自分の朗読を録音します。BGMに合わせて読むことで、いかに抑揚や声の大きさ、間のとり方が大切であるのかに気づき、朗読の質を高めていくことがねらいの授業です。堀教諭は、「教科学習にiPadを活用した表現を取り入れることで、アウトプットの質を高めることができます。児童たちも試行錯誤が増え、主体的に取り組む姿が見られます」と手応えを語っています。授業中はスクールワークで資料が配布され、児童たちはそれを見ながら自分で学習を進めるなど、主体的に取り組める環境も築かれていました。



## 先進的なICT活用を支えるJamf Proのメリット

このような関西大学初等部の教育活動を支えているのが、同校のICT機器管理やメンテナンスを請け負う株式会社SRAの西村考則氏です。西村氏にJamf Proを選ぶメリットを聞きました。

### ■ ゼロデイサポートの安心感

一般的にJamf Proのような海外製MDMについては、トラブル時の対応が遅いと思われがちです。しかし、西村氏はこれについて、「Jamf Proにはゼロデイ（即日）サポートがあり安心でした。アップグレードの時も対応が早く、「いつになったらアップグレードできるの？」とこちらから聞くこともありません。Appleの情報に強いので、きちんと対応してもらえる安心感もあります」と語っています。

### ■ UIが使いやすく、アプリケーション配信も確実

Jamf ProはUIが使いやすいのもメリットだと西村氏は述べています。たとえば、今まで使用したMDMは、アプリケーション配信の設定画面が分かりづらく、手順も多いことが課題でした。ところがJamf Proの場合は、「アプリケーション配信は購入したアプリケーションのみが反映され、それを割り当てれば、確実に児童の端末に配信されます。以前は、Apple Configuratorにつないで作業をし直すことも多々ありましたが、今では一切ありません」と西村氏は話しています。

### ■ iPadに表示したい項目が選択できる

Jamf Proを導入してから目に見える効果として実感したのは、教師や児童のiPadが見やすくなったことだといいます。西村氏は「これまでiTunes Uやクラスルームでは、必要のない過去のコースやクラスが見えてしまい、自分のクラスを探すのに手間がかかることがありました。しかし、Jamf Proに変わってからは、iPadで表示できるクラスやコースを選択できるようになり、教師や児童は見たい内容にアクセスしやすくなりました」と語っています。iPadを使うときの見やすさは、時間短縮にもつながるので、この変化は大きいといいます。



株式会社SRA  
西村考則 氏

関西大学初等部  
堀力斗 教諭